

2023年3月11日発行

# 幼児教育における PDCA サイクルの活用

## —— 保育現場における実践 ——

岸 久美子

相模女子大学紀要 VOL.86 (2022年度)

# 幼児教育における PDCA サイクルの活用

—— 保育現場における実践 ——

岸 久美子

## Utilization of the PDCA cycle in early childhood education

—— Practice in childcare ——

Kumiko KISHI

PDCA サイクルは、Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）の順に行われ、企業の経営管理システムや品質管理の改善するシステムとして使われている。保育の現場においては、2008年告示の保育所保育指針において「保育所は、保育の計画に基づいて保育し、保育の内容の評価及びこれに基づく改善に努め、保育の質の向上を図ること」と規定された。また、2009年に厚生労働省は、保育所における保育指針を踏まえた保育課程の編成と、それに基づく指導計画を作成し、PDCA サイクルの具体的な姿勢を示した。

子どもの理解が重要である保育の現場において、PDCAサイクルをどのように活用しているのか、予備調査と保育園の保育士を対象に本調査を行った。その結果、予備調査では否定的な回答もあり、個人レベルでは活用していないとの意見もあった。しかし、本調査では、個人的に活用している保育士もいることがわかった。

The PDCA cycle is carried out in the order of Plan → Do → Check → Action, and is used as a system for improving corporate business management systems and quality control. In the field of childcare, the nursery school childcare guidelines announced in 2008 state that "nursery schools should provide childcare based on childcare plans, evaluate the content of childcare and strive to make improvements based on this, and strive to improve the quality of childcare." was stipulated. In 2009, the Ministry of Health, Labor and Welfare formulated a childcare curriculum based on the childcare guidelines for daycare centers and created a guidance plan based on this, showing a concrete stance on the PDCA cycle.

I conducted a preliminary survey and a main survey of nursery school teachers to find out how the PDCA cycle is being used in childcare settings, where understanding of children is important. As a result, there were negative responses in the preliminary survey, and there were also opinions that the system was not used at the individual level. However, in this survey, it was found that there are nursery teachers who use it personally.

**Key Words** : PDCA cycle, early childhood education, nursery school

## はじめに

PDCAサイクルは、目標達成を管理するシステムとして、企業の経営管理の基本とされている<sup>1)</sup>。また、瀬川らは、PDCAサイクルについて、「産業社会の中で産業技術における品質管理を継続的に改善するための手法」、「生産技術の確実な品質管理のためのリスク軽減を目指して確立させたシステム」、「偶発的で思いがけないことが起こる保育の現場は、不確実な状況にあふれています<sup>2)</sup>」と述べている。

2008年告示の保育所保育指針第4章(2)「保育所の自己評価の目的及び定義」において、「保育所は、保育の計画に基づいて保育し、保育の内容の評価及びこれに基づく改善に努め、保育の質の向上を図るとともに、その社会的責任を果たさなければならない<sup>3)</sup>」と規定している。また、2009年に厚生労働省は、「保育所では、保育指針を踏まえた保育課程を編成し、それに基づく指導計画を作成します。計画(Plan)に基づき実践し(Do)、その実践を評価し(Check)、改善(Action)に結び付けていくPDCAの循環の継続が重要であり、これらの連動のなかで保育の質と職員の協働性が高められていきます<sup>4)</sup>」と、保育におけるPDCAサイクルの具体的な姿を示した。それによって、保育の現場においても、PDCAサイクルが適用されるようになった。

以上より、PDCAサイクルが、幼児教育の現場においても適用されるようになったこと、保育の質にも関係していることがわかる。

2017年告示の幼稚園教育要領において、カリキュラム・マネジメントという言葉が初めて使われた。『幼稚園教育要領第1章総則 第3教育課程の役割と編成等』には、「全体的な計画にも留意しながら、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を踏まえ教育課程を編成すること、教育課程の実施状況の評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにそ

の改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各幼稚園の教育活動の質の向上を図っていくこと（「以下カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする<sup>5)</sup>と記載されている。また、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領第1章総則 第2教育及び保育内容並びに子育て支援等に関する全体的な計画の作成等』においても同様のことが書かれている。そして、2016年の『中教審答申第2部第1章1. 幼児教育(2)幼稚園等におけるカリキュラム・マネジメントについて』では、「幼稚園等では、教科書のような主たる教材を用いず環境を通して行う教育を基本としていること、家庭との関係において緊密度が他校種と比べて高いこと、預かり保育や子育ての支援などの教育課程以外の活動が、多くの幼稚園等で実施されていることなどから、カリキュラム・マネジメントは極めて重要である<sup>6)</sup>」と記載されている。

カリキュラム・マネジメントについて、神長は、「幼稚園の教育目標の実現に向けて、子どもの地域や家庭での生活の実態を踏まえ、教育課程を編成、実施、評価し、その上で改善を図るという、教育課程の一連のPDCAサイクルを計画的・組織的に実施していくこと<sup>7)</sup>」と述べている。

以上により、幼児教育におけるカリキュラム・マネジメントの重要性、そして、カリキュラム・マネジメントのためにPDCAサイクルの実施が不可欠であることがわかる。

## 保育の現場におけるPDCAサイクル

椋木らは、PDCAサイクルについて、「4つのサイクルとなって繰り返し行われることで、状況の改善をめざす。したがって、教育・保育の場合も、計画を実践して終わるのではなく、適切な評価を行い、必要に応じて改善を行っていくことが重要である。つまり、評価(Check)のあとに改善(Action)を

することは、その改善の視点を計画 (Plan) に反映させ、実行 (Do) することである。…略… 評価は計画が適切であったか、あるいは計画が適切に実施されたかをみるものである<sup>8)</sup>と述べている。位田らは、「保育が実施された後、保育者は自分の保育を振り返り、評価し、課題を明確化する。その上で、改善に向けた取り組みの方向性を職員間で共有し、次の計画に生かしていく。つまり、計画 (Plan)、実施 (Do)、評価 (Check)、改善 (Action) するという流れをつくる。保育の営みはこれの繰り返しである<sup>9)</sup>と述べている。また、神蔵は、「新人、ベテランを問わず、つねに、PDCAサイクルを念頭に置き、日々を積み重ねていくことで保育者として成長できる。…略… 保育者として、保育実践のPDCAを常に回すことができるようになるためには、まず、自分の生活、あるいは身近に応用できそうな事柄にあてはめ、その考えや方法を身につけることから始めること<sup>10)</sup>と述べている。さらに松本らは、PDCAサイクルは、子どもをより深く理解していく過程にあてはめると述べている<sup>11)</sup>。

PDCAサイクルについて保育用語辞典第8版には、「教育や保育の目標達成の管理プロセスでは、①園やクラスの経営方針、重点目標の作成 (Plan) →②計画に基づく教育活動の実施 (Do) →③教育活動の実施状況の点検 (Check) →④評価結果から次年度計画の改善 (Action) を回すことになる<sup>12)</sup>と記載されている。また、「“技術的合理性”に基づくシステム化が進み過ぎるとプロセスや状況の中での省察を重視する保育や教育にはなじまないとする意見もある<sup>12)</sup>と問題点もあげている。

では、保育における省察とは何なのか。師岡は、「記録をとる作業を通して、保育実践を振り返ることを『省察』という<sup>13)</sup>と述べている。

上田は、「保育において省察することは、①これまでの保育実践の経験から実践知を構築すること、②その保育実践における自らの保育行為を吟味し妥当性を検討すること、③その保育実践において紋切り型ではなく、理論的な原理を文脈に対応させること、の3つの意味が含まれている。たとえば、何度となく幼児のけんかにかかわっていれば、そこからどう対応するかが身に付いてくる (①)、だが、あるけんかの場面で本当にその仲裁の仕方が正しかったのかどうかを振り返って吟味し (②)、幼児の理解や発達に即しながらその是非を検討する (③) ことである<sup>14)</sup>と述べている。また、久富は「保育者は自分たちの専門性を高めるという意味でも、保育

実践を省察すること、評価することを大切にしている。省察や評価は『振り返り』と呼ばれることが多い<sup>15)</sup>と述べている。さらに、省察について保育用語辞典第8版には、「保育という実践は絶対的な正解があるわけではないため、家に自分自身で目の前の子どもに即して、そのかわりを探求し創造していくことになる。しかも、それは時々別々と変化する不可実な状況の中で、そのつど判断と選択が求められる営みである。したがって保育者は、自らの専門性を求めていく必要がある。保育が終わった後、実践の最中には捉え切れなかった子どもの姿や出来事の「意味」について振り返り、子どもの思いや『発達の課題』を捉えるまなごしを確かなものとし、自らの保育を深めていくことができるのである。そのように、日々の子どもの姿を謙虚に受け止め、自己内の対話を積み重ねていく省察は、保育者の成長に欠かせないものであると考えられている<sup>16)</sup>と記載されている。

倉橋は、『育ての心』の中の『子どもらが帰った後<sup>17)</sup>において、以下のように述べている。

子どもが帰った後、その日の保育が済んで、まずほっとするのはひと時。大切なのはそれからである。子どもと一緒にいる間は、自分のしていることを反省したり、考えたりする暇はない。子どもの中に入り込みきって、心に一寸の間隙も残らない。ただ一心不乱。

子どもが帰った後で、朝からのいろいろのことが思いかえされる。われながら、はっと顔の赤くなることもある。しまったと急に冷汗の流れ出ることもある。ああ済まないことをしたと、その子の顔が見えてくることもある。——体保育は……。一体私は……。とまで思い込まれることも屢々である。

大切なのは此の時である。この反省を重ねている人だけが、真の保育者になれる。翌日は一歩進んだ保育者として、再び子どもの方へ入り込んでいけるから。

つまり、子ども達が帰った後、保育者が行う一日の振り返りは、保育者にとって欠かせないことがわかる。そして、振り返りはPDCAサイクルにおいて評価 (Check) 部分にあたり、子どもの理解につながると考えられる。

## 研究目的

以上により本研究では、保育の現場でPDCAサイクルをどのように活用しているのか、特に、PDCAサイクルの中の「評価」と「改善」に着目したい。

## 3. 研究方法

予備調査 2022年11月1日～10日

調査対象 現役保育士、元保育士 合計3名  
対面でインタビューを行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、Eメール及びLINEを使って行った。

本調査 2022年11月15日～11月25日

調査対象 現役保育士  
回答を得られた人数 12名  
当初、保育園5園の保育士を対象に行なう予定であったが、予備調査の結果を踏まえ、対象者を厳選し、Googleフォームを使って実施した。

### 倫理的配慮

この調査は強制ではないこと、勤務先及び個人を特定しないこと、調査結果は本研究のみに使用することなど賛同できる場合のみ回答してもらうこととした。

調査結果は筆者のUSBに保存し、プリントアウトしたものと一緒に、自宅の机の引き出しに鍵をかけて保管している。

## 4. 調査結果及び考察

### ① 予備調査

以下、予備調査で出てきたことを記載する。主観的過ぎる意見に関しては省略する。また、原則として、記載されていた通りに記述する。

- 指導案などの計画は、PDCAサイクルにあてはまると思うが、その根底には幼児理解が必要。
- PDCAサイクルは、保育の現場では計画に使用する。ただし、Aは改善ではなく省察であるべきだと聞いたことがある。
- PDCAサイクルを活用するかどうかは、園の方針や法人の方針、所属団体の方針で決まる。保育士個人で活用するか決められない。
- 保育士の中には、PDCAサイクルの使用方法を理解していない場合がある。
- 保育における全体的な計画をPDCAサイクル

によって見直すことは有効かもしれない。

- PDCAサイクルは、保育の現場ではあまり活用されていない。なぜならば、PDCAサイクルによる質の向上の仕組みというのは、目に見えて良くなっていくというもの。利益のように数値化でき、白黒はっきりしたものでなければ仕組みが働かないと考えるからである。
- 保育では、日々変化する子どもの姿に合わせて指導計画が変わっていくが、必ずしも年齢に沿った発達はしていない。一人ひとり発達の状況は異なるため、PDCAサイクルにあてはめることが難しい。
- 職員が、保育の質の向上のために、研修でPDCAサイクルを活用することは有効であるかもしれない。
- 保育では、PDCAサイクルよりもドキュメンテーションを使ったエピソード研修などは良く行われていると思う。
- 保育士それぞれが考察してもそれぞれの意見があるため、整理をし、課題を見出すことが難しいことがある。

PDCAサイクルは、2008年に保育所保育指針で規定され、さらに2009年に厚生労働省からの指示により、当然のこととして保育の現場で活用されているものと考えていた。しかし、予備調査の結果、園によっては、園の方針や所属団体の方針によって、PDCAサイクルを活用するかしないかを決めていることがわかった。つまり、個人レベルで活用していない園もあることを初めて知った。

また、PDCAサイクルの活用に対して否定的な意見もあった。おそらく、企業で使用されていたものを発達の異なる子ども達にあてはめることが難しいからだと考える。

### ② 本調査

予備調査の結果を踏まえ、人数を絞って行なった。

PDCAサイクルを活用しているか

- 活用している 83.3%
- 活用していない 0%
- わからない 16.7%

PDCAサイクルを何に活用しているか

- 全体的な計画 66.7%
- 長期の指導計画（年間計画、期案、月案）58.3%
- 短期の指導計画（週案、日案）50%

個人的な自己反省、保育計画 8.3%  
ヒヤリハットなどに 8.3%

PDCAサイクルを活用している理由

園の方針 58.3%  
活用しやすい 33.3%  
厚労省が推奨しているから 16.7%  
必要だと感じたから 8.3%  
自分自身の保育の質の向上のため 8.3%

PDCAサイクルの「評価」をどのように行っているか

全職員によるカンファレンス 58.3%  
クラスごとによるカンファレンス 66.7%  
自分一人で振り返る 75%  
立場に関わらず、意見を言い、その意見を好意的に受け取り合う環境や人間性 8.3%

「評価」をする際に心掛けていること

子どもの発達 100%  
子どもの性格 75%  
子どもの身の回りの環境 75%

PDCAサイクルの「改善」は、どのように行っているか

全職員によるカンファレンス 75%  
クラスごとによるカンファレンス 6%  
自分一人で考える 75%

「改善」をする際に心掛けていること

子どもの発達 91.7%  
子どもの性格 83.3%  
子どもの身の回りの環境 100%

「子どもの理解」として大切にしていること（原則として、記載されていた通りに記述する）

理解しているという事は自分の口で、言葉で話せる事。何事も問いかけ考え自分の答えを出させるようにしている。  
思い込みや決めつけなどで関わらず、一呼吸置いて落ち着いて関わる。その中で冷静に子どもを観察し、言葉の裏側にある動機や思いを汲み取り、そこに対しても愛情を示す。  
子どもたちに分かりやすいように伝える。  
子どもの気持ちに寄り添うこと。  
いつも見守っている大人がいることの安心感

（地域との連携）。

保護者支援を大切に、保育をしている。  
子どもへの観察と、発達の学び。  
子ども達に伝わりやすい伝え方。  
子どもの目線にたち、寄り添い受けいれること。  
愛情をもって繰り返し接すること  
子ども達の発達段階や性格、家庭環境や置かれている生活の背景。  
子どもの発達や特性を理解すること。  
子どもの「やりたいこと」と「やれること」  
子どもをよく観察すること。

予備調査では、あまり積極的にPDCAサイクルを活用していない、否定的な回答もあった。また、個人レベルで行うものではないという意見もあった。しかし、実際には、園やクラスで行っているだけではなく、自分自身の保育の質の向上のため行っていることがわかった。「評価」や「改善」については、子どもの発達を大切の考えた上で行っていることがわかった。

予備調査において「PDCAサイクルの根底には幼児理解が必要」との回答があったため、子どもの理解についても調査した。どの回答も子ども一人ひとりを「よく見ること」「よく観察すること」が根底にあると思われる。その上で、子どもに対して愛情をもって接する、寄り添うことが行われていると考えられる。

## 5. おわりに

今回は、保育園の保育士を対象に調査を行った。予備調査の段階で、本研究開始時に想定していなかった結果が導き出された。法令等で規定されていても、PDCAサイクルを保育の現場であてはめることが難しいとのことであった。しかし、予備調査の結果を踏まえて本調査を実施した結果、予備調査とは逆に、PDCAサイクルは活用されていることがわかった。

今後、「評価」と「改善」の部分については、もう少し深く掘り下げ、さらに、幼児教育の現場におけるPDCAサイクル全体について検討を行ってみたい。

今回は予備調査を踏まえて少人数で行ったが、今後は保育園の保育士だけではなく幼稚園や認定こども園の保育者にも広げ、PDCAサイクルの活用について調査を行いたい。調査検討の結果については、機会があればご報告させて頂きたい。

引用文献

- 1) 森上史朗 (2015) PDCAサイクル 森上史朗、柏女霊峰 (編) 保育用語辞典第8版 ミネルヴァ書房 p.126
- 2) 瀬川千津子 (2020) 第4章 指導計画の作成と理解 渡邊英則、大豆生田啓友 (編著) 新しい保育講座④ 保育内容総論 p.66
- 3) 厚生労働省 (2008) 保育所保育指針 フレーベル館 p.22
- 4) 厚生労働省 (2009) 保育所における自己評価ガイドライン  
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/pdf/hoiku01.pdf> (2022.9.8閲覧)
- 5) 文部科学省 (2017) 幼稚園教育要領 フレーベル館 p.8
- 6) 中央教育審議会 (2016) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申)  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902\\_0.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf) (2022.9.8閲覧)
- 7) 神長美津子 (2018) 幼稚園におけるカリキュラム・マネジメント 無藤隆 (編) 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 東洋館出版社 p.62
- 8) 椋木香子 (2019) 第13講 教育実践の基礎 矢藤誠慈郎、北野幸子 (編) 新・基本保育シリーズ②教育原理 中央法規出版 p.154
- 9) 位田かづ代 (2019) 第6章 全体的な計画の作成と指導計画の作成 栗岡あけみ (編) 保育内容総論 豊岡短期大学通信教育部 p.69
- 10) 神蔵幸子 (2018) 第3章 保育の場における保育実践力I ―保育実践の原理― 小原敏郎、神蔵幸子、義永睦子 (編著) 保育・教職実戦演習〔第2版〕 建帛社 p.28
- 11) 師岡章 (2015) 保育カリキュラム総論 ―実践に連動した計画・評価のあり方、進め方― 同文書院 p.232
- 12) 前掲1)
- 13) 松本峰雄、浅川繭子、新井祥文、小山朝子、才郷真弓、松田清美 (2019) よくわかる! 保育士エクササイズ⑥ 保育の計画と評価演習ブック ミネルヴァ書房 p.35
- 14) 上田敏丈 (2020) 13章 保育者の省察とカンファレンス 小田豊、中坪史典 (編) 幼児理解からはじまる保育・幼児教育方法〔第2版〕 建帛社 pp.121-122
- 15) 久富陽子 (2009) 幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方 萌文書林 pp.28-29
- 16) 高嶋景子 (2015) 省察、森上史朗、柏女霊峰 (編) 保育用語辞典第8版 ミネルヴァ書房 pp.131-132
- 17) 倉橋惣三 (2008) 育ての心 (上) フレーベル館 p.49